

ふるさと水

食べる木

アート会

得する土

放する日

ぐるっと首都圏

母校をたのねる

部活、勉強に明け暮れた

ビジネス書作家 木暮太一さん 1995年度卒

次頁参照

千葉県立船橋高 ④



卒業時代は部活に明け暮れた。二種選手として活躍した。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。

部活に明け暮れた。二種選手として活躍した。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。

千葉県立船橋高等学校。卒業後の人生は、バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。

千葉県立船橋高等学校。卒業後の人生は、バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。

1975年、千葉県立船橋高等学校。卒業後の人生は、バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。

1975年、千葉県立船橋高等学校。卒業後の人生は、バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。

千葉県立船橋高等学校。卒業後の人生は、バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。

千葉県立船橋高等学校。卒業後の人生は、バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。

百人一首の「かるた大会」

百人一首の「かるた大会」。千葉県立船橋高等学校。卒業後の人生は、バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。

百人一首の「かるた大会」。千葉県立船橋高等学校。卒業後の人生は、バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。

団体戦は特製の大将札で

団体戦は特製の大将札で。千葉県立船橋高等学校。卒業後の人生は、バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。

団体戦は特製の大将札で。千葉県立船橋高等学校。卒業後の人生は、バレーボールの経験が今の成功の礎になった。バレーボールの経験が今の成功の礎になった。



大会の様子が写っている。今年も個人戦が中心で、団体戦が16日に開催される。



## 部活、勉強に明け暮れた ビジネス書作家木暮太一さん＝1995 年度卒

木暮太一さん(41)1995 年度卒は、経済学の入門書などの著書があるビジネス書作家です。千葉県立船橋高校時代はバレーボール部に所属し、部活と勉強に明け暮れました。文武を両立する友人たちにも恵まれ、「こつこつと勉強することが身に着いた」と振り返ります。

中学時代は陸上部に所属し、三種競技で千葉県で 5 位なったこともあります。バレーボールの経験はありません。当時の船高のバレーボール部は結構強く、やるならちゃんとやりたいと思って入部しました。

練習は正月の三が日以外はほとんど休みはありません。平日は午後8時くらいに帰宅し、それから勉強しました。遊びに行く時間もないし、制服か T シャツ、短パンで過ごし、私服を持っていませんでした。3年生の時に遠足でディズニーランドに行くことになって、着ていく服がなくて慌てて買いに行ったほどです。

左利きで、ポジションはライトです。バレーボールは向いていました。相手の動きを読んでスパイクする所を決めたり、相手との距離感をとらえたりするのが得意でした。練習はきつかったけど楽しかったです。

ただつらかったのは夏合宿です。体育館がサウナ状態で、興味本位で温度を測ってみたら42度あり、その中で1時間延々とパスの練習をしたりしていました。たまには卒業生が遊びに来るのですが、僕ら現役と試合をしてこっちが勝たないと終わらないのです。僕らの上の学年は強くて、夜中まで試合をしていたこともありました。

部に同級生は14人いて、友人に恵まれていました。合宿で夜の練習の前に30分の休憩があります。みんな休まず参考書を開いて勉強し、問題を出し合ったりしていました。1年の時から勉強や受験の話をし、お互いに良きライバルという感じでした。でも、抜け駆けみたいなことをする人もいません。おかげでこつこつ勉強する素地が身に着きました。大学受験で僕は浪人しましたが、他の同級生は医学部や一橋大、早稲田大などに合格しました。

唯一後悔しているのは、練習をPDCA(PLAN＝計画、DO＝実行、CHECK＝評価、ACTION＝改善)で回さなかったことです。当時の僕は漠然と体を動かし、体当たりでぶつかっていく感じでした。のめり込むタイプで、休みがほしいと思ったことはありません。受験勉強も効率よりも目の前の問題集を解きまくるようなやり方でした。大学では経済学の授業の解説本を友人のために自作しました。大学2年、3年では、ほぼ図書館にこもって本を書いていた。

女の子と遊びに行くこともなく、地味な高校生活だったと思います。でも、とても楽しかった。自分ができても周りができないことやその逆もあり、失敗をカバーし合いました。そこで、みんなで一緒に何かをやっていくチームプレーを学んだのです。バレーボール部は自分の土台を作ってくれました。

こぐれ・たいち 1977年、千葉県船橋市生まれ。慶応義塾大在籍中に自作した経済学の解説本が評判になる。2001年に富士フィルムに入社。サイバーエージェント、リクルートを経て09年に独立。13年に一般社団法人「教育コミュニケーション協会」を設立。著書に「今までで一番やさしい経済の教科書」(ダイヤモンド社)、「僕たちはいつまでこんな解き方を続けるのか」(星海社)など